



※道路の余剰空間を活用する取り組み

いく必要があります。

また、タフティカル・アーバンイズム（戦術的都市づくり）の考えも重要で、この町も活用できる土地は限られています。パークレット※や可動式カフェなど、土地をうまく活用した事例を学び、有効活用しようとする考えが、馬場川通りのまちづくりにも必要。そして、「何のために、どんな町を目指すのか、何を仕掛けていくのか」という手順を意識することも重要です。この過程では、住民の考えが必要不可欠。住民だからこそ知る馬場川通りの魅力を生かしてこそ、新たな魅力を構築できます。



セミナーとワークショップは8月も開催予定。対面とオンライン両方の参加が可能で、気軽に参加できます。詳しくは前橋デザインコミッションホームページをご覧ください。



◆語り合ってワクワクを編集

一番印象に残ったのは、「今ここなもので未来の町をつくる」という言葉です。プロジェクトに参加することで、自分の住んでいる町を思い浮かべ、こんな場所があったらいいなと想像し、まちづくりを学び、自分の考えを述べることができます。セミナーやワークショップなどに参加することは、多くの人が心の中に抱く、自分のまちがこうであればいいなという未来のまちへのワクワクを集結させます。ただ「前橋市に住む」のではなく、「こうなりたい」という前橋の姿を一人一人が自分ごととして考えて、小さなことからでもアクションを起こしていくことが大切です。



◆理想のまちの姿を共有

ワークショップでは、馬場川通りのありたい姿について参加者同士で意見を出し合いました。参加したグループでは、地元の人にとって誇りに思える通りでありたいという意見や、馬場川通りにある建物やお店、馬場川通り特有の温かい雰囲気が好きという意見が出ました。グループによって意見はさまざまでしたが、全てのグループに共通して、人と人とのつながりを大切にしたいという思いがありました。

編集後記

梅澤 まちづくりは現在まちで起こっている問題を解決するためだけでなく、まちの未来を見据え、未来の問題に対応するために取り組むものだと学び、まちづくりに関するイメージが大きく変わりました。

尾池 セミナーに参加し、自分の住んでいる市について興味を持つきっかけになりました。まちに実際に足を運んだり、セミナーに参加したりすることも、みんなで作るまちづくりの一歩になると感じました。

小沼 ワークショップでは地元の高校教員から県外の大学生まで、多様な参加者と意見を交わすことができました。学生でもまちづくりについて考えたり学んだりすることができる機会は貴重だと感じました。

玉川 ディスカッションは最初は緊張感がありましたが、時間が経つにつれ活発な議論が行われ、最後の発表ではグループで仲間になれたように感じました。馬場川通りの今後に期待が高まります。

未来のまちをつくるワクワクが集結

馬場川通りから始まるまちづくり



Instagram



Facebook

ワカモノ記者

SNSも見てください！

担当 梅澤 萌々美、尾池 優香、小沼 朋暉、玉川 ひろみ
 前橋デザインコミッション ☎ 027-289-3773



◆前橋市アーバンデザインとは

このプロジェクトの背景として、前橋市で掲げている前橋市アーバンデザイン

◆馬場川通りアーバンデザインプロジェクトって？

前橋市の中心市街地にある馬場川通りの約200mの遊歩道公園を、自然を感じリラックスできる場所にするためにリニューアルするプロジェクトです。単なる公共空間の改修ではなく、市民が積極的に参加してより素敵な空間や楽しい活動を創り出すことが重要なポイントです。前橋デザインコミッション(MDC)が主体となり、官民連携でさらに魅力のある前橋市にリニューアルしていきます。

◆市民から始まるまちづくり



セミナーでは、「エコディストリクトって何だろう？」をテーマに、東京大准教授・村山頭人さんが講演をしました。対面とオンラインを合わせて100人以上が参加。前橋市のまちづくりに関心を持つ人の多さに驚きました。

講演ではまちづくりの具体的な規定や現在のまちづくりの方向性や課題、村山さんがまちづくりに携わった名古屋市中区錦二丁目の事例などの

紹介がありました。

講演から、まちづくりは、町の未来だけでなく、地球全体の未来を考え、広い視野を持って取り組むものだと分かりました。近年、SDGsという言葉が注目されています。まちづくりに関しても、持続可能な意識する重要性が増しています。それと同時に、生物多様性や気候変動、感染症など変化が著しい現在のグローバルリスクに対応するまちづくりを考えて

